

K D I (神奈川県景気動向指数)

平成24年9月分(速報)

景気の現状を示す**一致指数**は、「県生産指数」及び「県投資財出荷指数」などがマイナスであったものの、「県大口電力使用量」及び「首都高速道路神奈川線通行台数」などがプラスであったことから57.1%となり、3か月ぶりに50%を上回りました。

景気の先行きを示す**先行指数**は、42.9%となり、2か月連続で50%を下回りました。

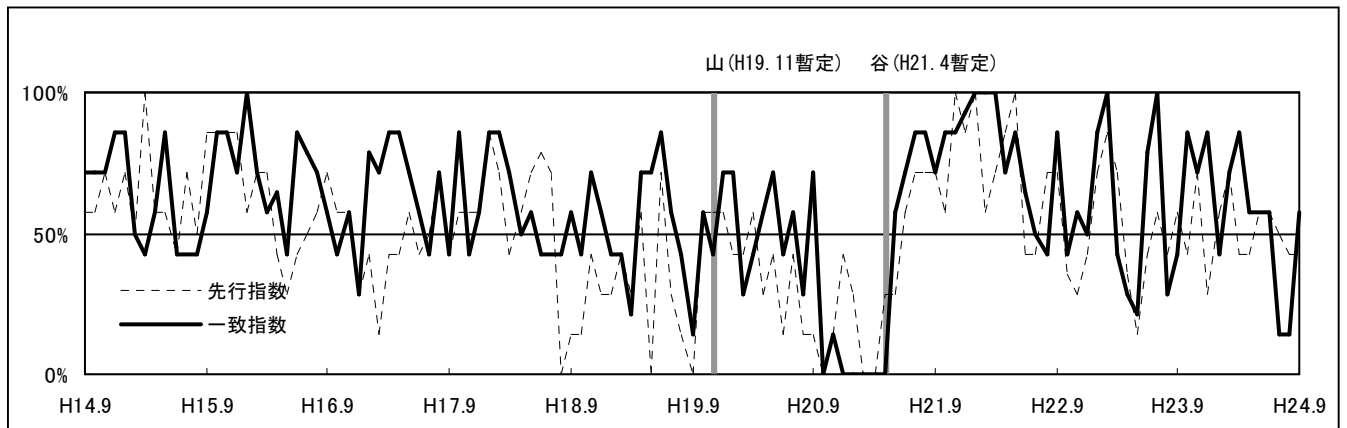
景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は、30.0%となり、3か月連続で50%を下回りました。

<過去1年間の指数の動き>

(単位 %)

月	H23.9	10	11	12	H24.1	2	3	4	5	6	7	8	9
先行指数	57.1	42.9	71.4	28.6	57.1	71.4	42.9	42.9	57.1	57.1	50.0	42.9	42.9
一致指数	42.9	85.7	71.4	85.7	42.9	71.4	85.7	57.1	57.1	57.1	14.3	14.3	57.1
遅行指数	100.0	41.7	33.3	0.0	33.3	50.0	66.7	41.7	25.0	50.0	16.7	16.7	30.0

<先行指数と一致指数の動き>



★景気動向指数

景気動向指数(ディフュージョン インデックス DI)は、生産、雇用など様々な経済分野の時系列データのうち、重要かつ景気に敏感な動きを示す複数の指標を統合した「総合的な景気指標」です。

DIは、使用する時系列データの変化方向(3か月前との比較)を合成した指数であり、景気の現状把握に役立てることができます。

現在、全国の指数は内閣府が毎月公表しているほか、他の自治体や研究機関でも各地域の指数について毎月又は四半期ごとに公表しています。

1. 平成24年9月分KDI（神奈川県景気動向指数）の各指数

先行指数は**42.9%**となり、2か月連続で50%を下回りました。
一致指数は**57.1%**となり、3か月ぶりに50%を上回りました。
遅行指数は**30.0%**となり、3か月連続で50%を下回りました。

各系列の指標の数値を3か月前と比較し、改善していれば「プラス」とし、悪化していれば「マイナス」とし、採用指標数に占める拡張(プラス)指標数の割合がDIです。(図表1)
DIは、景気変動する方向を示し、一般的には、景気の拡張期には一致指数が50%を上回る期間が多くなり、50%を下回る期間が連続すると後退期の可能性があります。

2. 各系列の9月の変化方向（3か月前の「平成24年6月」に対する変化方向）

（先行系列）

「^注県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)」及び「^注県新設住宅着工床面積」がプラスに転じ、「日経商品指数」が引き続きプラスであったものの、「^注県新規求人数」及び「^注県企業倒産件数(逆サイクル)」がマイナスに転じ、「^注県所定外労働時間指数」及び「^注県乗用車新車新規登録・届出数」が引き続きマイナスでした。

（一致系列）

「^注県生産指数」、「^注県投資財出荷指数」及び「^注県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)」がマイナスであったものの、「^注県大口電力使用量」、「^注首都高速道路神奈川線通行台数」及び「^注横浜港等輸出入通関実績」がプラスに転じ、「^注県有効求人倍率」が引き続きプラスでした。

（遅行系列）

「^注県在庫指数」がプラスに転じ、「^注県消費者物価指数」がもちあいとなったものの、「^注家計消費支出」がマイナスに転じ、「^注県普通営業倉庫保管残高」及び「^注県常用雇用指数」が引き続きマイナスでした。

注：景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの指標は増加をマイナス、減少をプラスとします。

〔備考〕

- 1 KDIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるか(方向)を判断する指標であり、景気変化の強さや水準を表すものではありません。このため、現実の経済活動の中で感じ取られる「実感」とは異なることがあります。例えば、一致指数が50%を超え続け、方向としては拡張傾向にある場合でも、景気変化が緩慢で景気水準も低い場合は、実感として回復(拡張)感を感じられないこともあります。
- 2 採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去にさかのぼって改訂します。
- 3 平成24年1月から9月の「首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)」は、神奈川県が独自に全線の大型車の通行台数をもとに加工した値です。
- 4 平成24年9月分の「県内銀行貸出約定平均金利」は平成24年11月30日公表予定のため、遅行指数は本資料作成時点で得られる値のみで求めました。

図表1 神奈川県景気動向指数変化方向表

系 列 名	平成23年				平成24年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
先行系	1 県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	-	-	+	+	+	+	+	-	+	-	-	+
	2 県新規求人数(除く学卒)	+	+	+	-	-	+	+	+	+	+	+	-
	3 県所定外労働時間指数(製造業)	+	-	-	-	-	+	-	+	+	+	-	-
	4 県新設住宅着工床面積	-	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	+
	5 県乗用車新車新規登録・届出台数(普・小・軽)	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-
	6 県企業倒産件数(逆サイクル)	+	+	+	-	+	+	-	-	-	+	0	+
	7 日経商品指数(17種)・前年同月比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+
拡張指標数	4	3	5	2	4	5	3	3	4	4	3.5	3	3
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
先行指数(D.I.) (%)	57.1	42.9	71.4	28.6	57.1	71.4	42.9	42.9	57.1	57.1	50.0	42.9	42.9
一致系	1 県生産指数(製造工業)	-	+	-	+	-	+	+	+	-	+	-	-
	2 県大口電力使用量	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+
	3 首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)	-	+	+	+	-	-	-	-	+	+	-	+
	4 県投資財出荷指数	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-
	5 県有効求人倍率(除く学卒)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	6 県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-
	7 横浜港等輸出入通関実績	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+
拡張指標数	3	6	5	6	3	5	6	4	4	4	1	1	4
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
一致指数(D.I.) (%)	42.9	85.7	71.4	85.7	42.9	71.4	85.7	57.1	57.1	57.1	14.3	14.3	57.1
遅行系	1 県在庫指数(製造工業)	+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+
	2 県普通営業倉庫保管残高	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-	-
	3 県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	+	-	-	-	-	+	0	+	0	+	-	-
	4 県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	+	-	-	-	+	+	+	0	-	-	-	0
	5 県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	+	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
	6 家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)	+	-	-	-	+	+	+	+	-	+	-	+
拡張指標数	6	2.5	2	0	2	3	4	2.5	1.5	3	1	1	1.5
採用指標数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5
遅行指数(D.I.) (%)	100.0	41.7	33.3	0.0	33.3	50.0	66.7	41.7	25.0	50.0	16.7	16.7	30.0p

※採用している全ての指標が公表されていない月には、指数に「p」をつけています。

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告（内閣府・平成24年11月16日公表）

景気は、世界景気の減速等を背景として、このところ弱い動きとなっている。

先行きについては、当面は弱い動きが続くと見込まれる。その後は、復興需要が引き続き発現するなかで、海外経済の状況が改善するにつれ、再び景気回復へ向かうことが期待されるが、欧州や中国等、対外経済環境を巡る不確実性は高い。こうしたなかで、世界景気のさらなる下振れや金融資本市場の変動等が、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き、デフレの影響等にも注意が必要である。

金融経済月報（日本銀行・平成24年11月21日公表）

わが国の景気は、弱含みとなっている。

先行きのわが国経済は、当面弱めに推移するとみられるが、国内需要が全体としてみれば底堅さを維持し、海外経済が減速した状態から次第に脱していくにつれて、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。

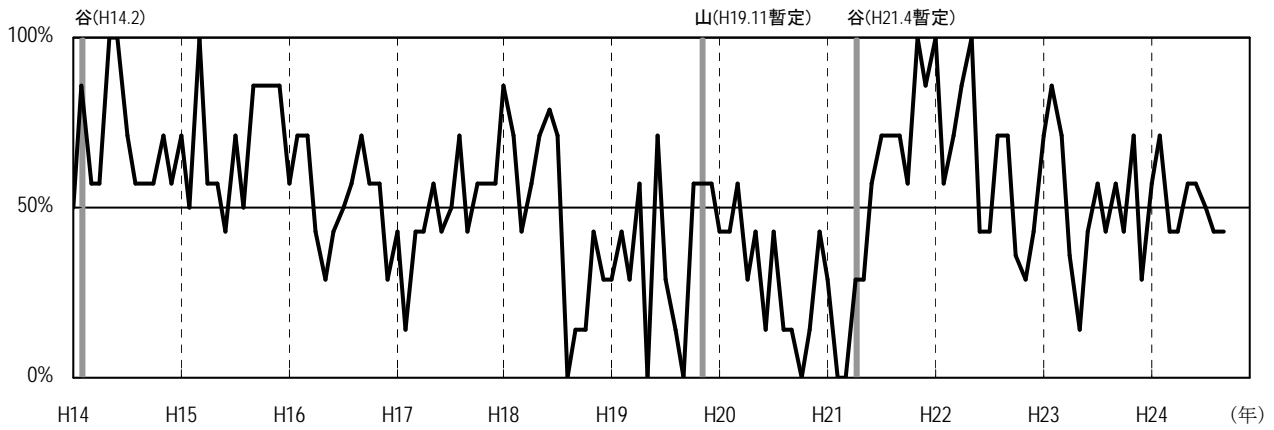
輸出や鉱工業生産は、当面減少を続けるとみられるが、その後は、海外経済が減速した状態から次第に脱していくにつれて、持ち直りに転じていくと考えられる。国内需要については、復興関連需要などから、公共投資は、伸びを鈍化させつつも当面は増加を続け、住宅投資も持ち直し傾向をたどると考えられる。設備投資は、当面は海外経済減速の影響などを受けつつも、企業収益が総じて改善傾向を維持するも、防災・エネルギー関連の投資もあって、緩やかな増加基調を続けると予想される。個人消費は、当面は乗用車購入の反動減などから弱めの動きとなるものの、基調的には底堅く推移していくと考えられる。

景気動向指数（内閣府経済社会総合研究所・平成24年11月6日公表）

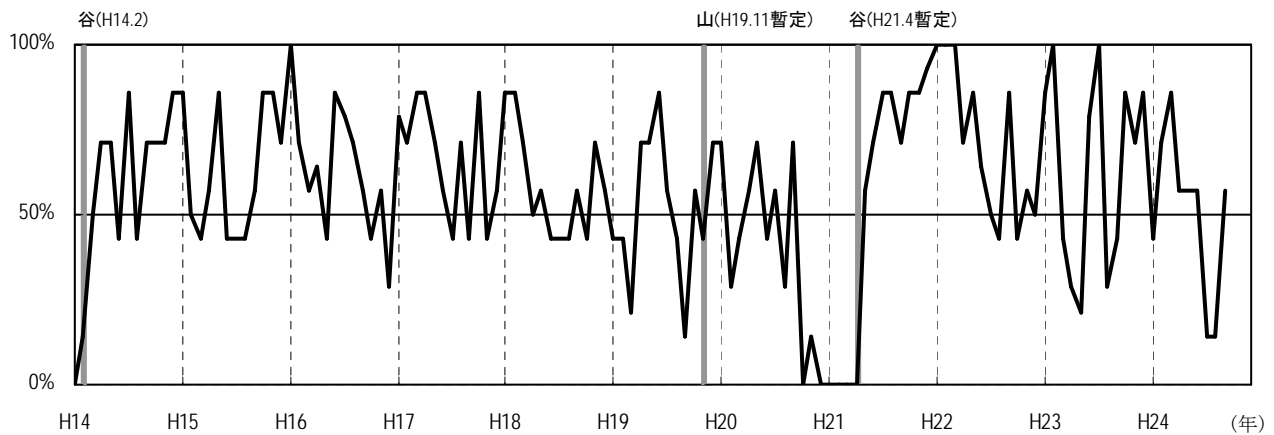
景気動向指数(CI一致指数)は、下方への局面変化を示している。

図表2 神奈川県景気動向指数グラフ

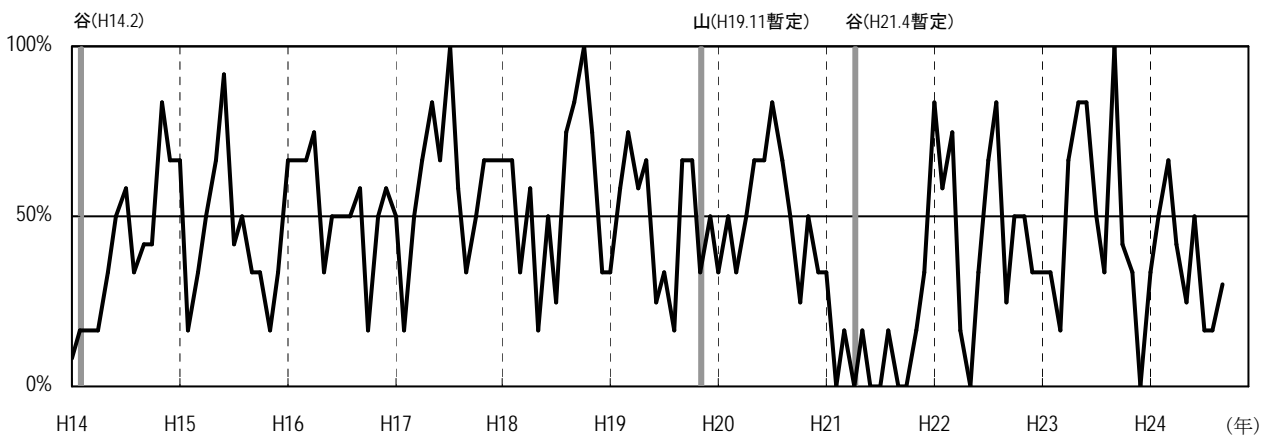
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



図表3 神奈川県景気動向指数指数表

(先行指数)

(単位 %)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2002	H14	50.0	85.7	57.1	57.1	100.0	100.0	71.4	57.1	57.1	57.1	71.4	57.1
2003	H15	71.4	50.0	100.0	57.1	57.1	42.9	71.4	50.0	85.7	85.7	85.7	85.7
2004	H16	57.1	71.4	71.4	42.9	28.6	42.9	50.0	57.1	71.4	57.1	57.1	28.6
2005	H17	42.9	14.3	42.9	42.9	57.1	42.9	50.0	71.4	42.9	57.1	57.1	57.1
2006	H18	85.7	71.4	42.9	57.1	71.4	78.6	71.4	0.0	14.3	14.3	42.9	28.6
2007	H19	28.6	42.9	28.6	57.1	0.0	71.4	28.6	14.3	0.0	57.1	57.1	57.1
2008	H20	42.9	42.9	57.1	28.6	42.9	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9
2009	H21	28.6	0.0	0.0	28.6	28.6	57.1	71.4	71.4	71.4	57.1	100.0	85.7
2010	H22	100.0	57.1	71.4	85.7	100.0	42.9	42.9	71.4	71.4	35.7	28.6	42.9
2011	H23	71.4	85.7	71.4	35.7	14.3	42.9	57.1	42.9	57.1	42.9	71.4	28.6
2012	H24	57.1	71.4	42.9	42.9	57.1	57.1	50.0	42.9	42.9			

(一致指数)

(単位 %)

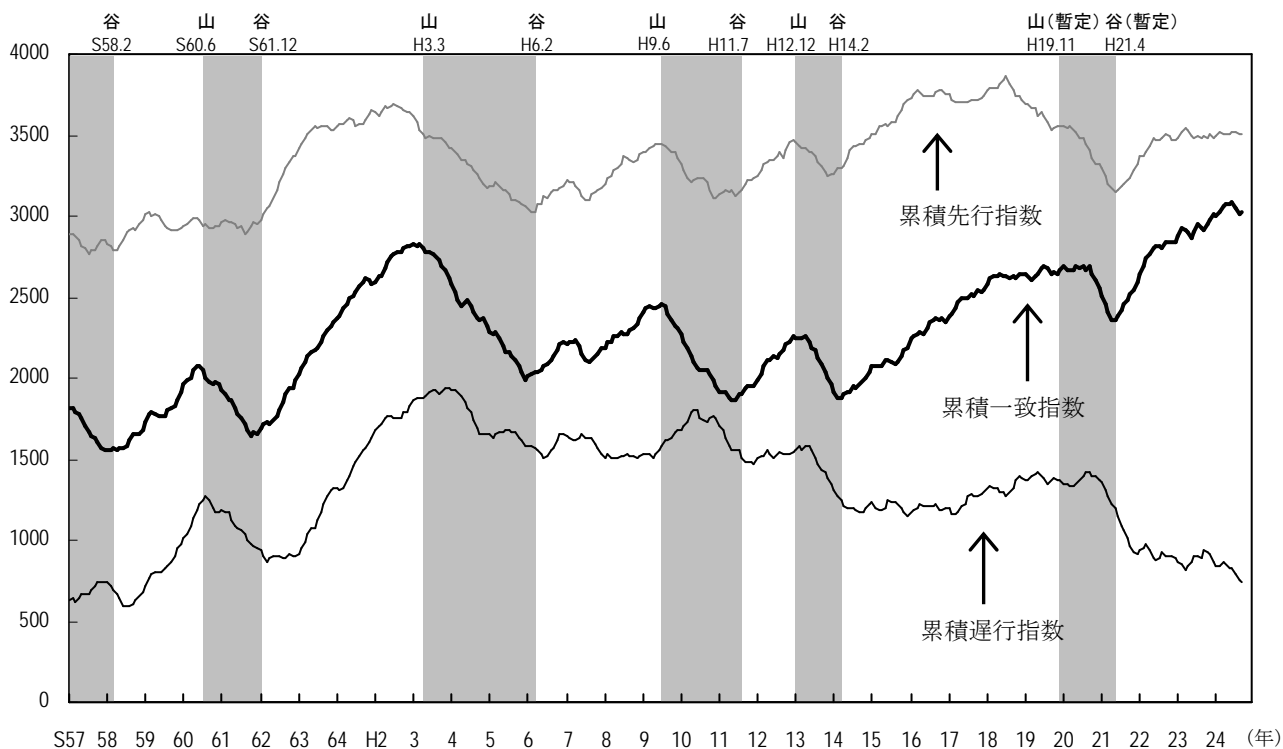
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2002	H14	0.0	14.3	50.0	71.4	71.4	42.9	85.7	42.9	71.4	71.4	71.4	85.7
2003	H15	85.7	50.0	42.9	57.1	85.7	42.9	42.9	42.9	57.1	85.7	85.7	71.4
2004	H16	100.0	71.4	57.1	64.3	42.9	85.7	78.6	71.4	57.1	42.9	57.1	28.6
2005	H17	78.6	71.4	85.7	85.7	71.4	57.1	42.9	71.4	42.9	85.7	42.9	57.1
2006	H18	85.7	85.7	71.4	50.0	57.1	42.9	42.9	42.9	57.1	42.9	71.4	57.1
2007	H19	42.9	42.9	21.4	71.4	71.4	85.7	57.1	42.9	14.3	57.1	42.9	71.4
2008	H20	71.4	28.6	42.9	57.1	71.4	42.9	57.1	28.6	71.4	0.0	14.3	0.0
2009	H21	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	71.4	85.7	85.7	71.4	85.7	85.7	92.9
2010	H22	100.0	100.0	100.0	71.4	85.7	64.3	50.0	42.9	85.7	42.9	57.1	50.0
2011	H23	85.7	100.0	42.9	28.6	21.4	78.6	100.0	28.6	42.9	85.7	71.4	85.7
2012	H24	42.9	71.4	85.7	57.1	57.1	57.1	14.3	14.3	57.1			

(遅行指数)

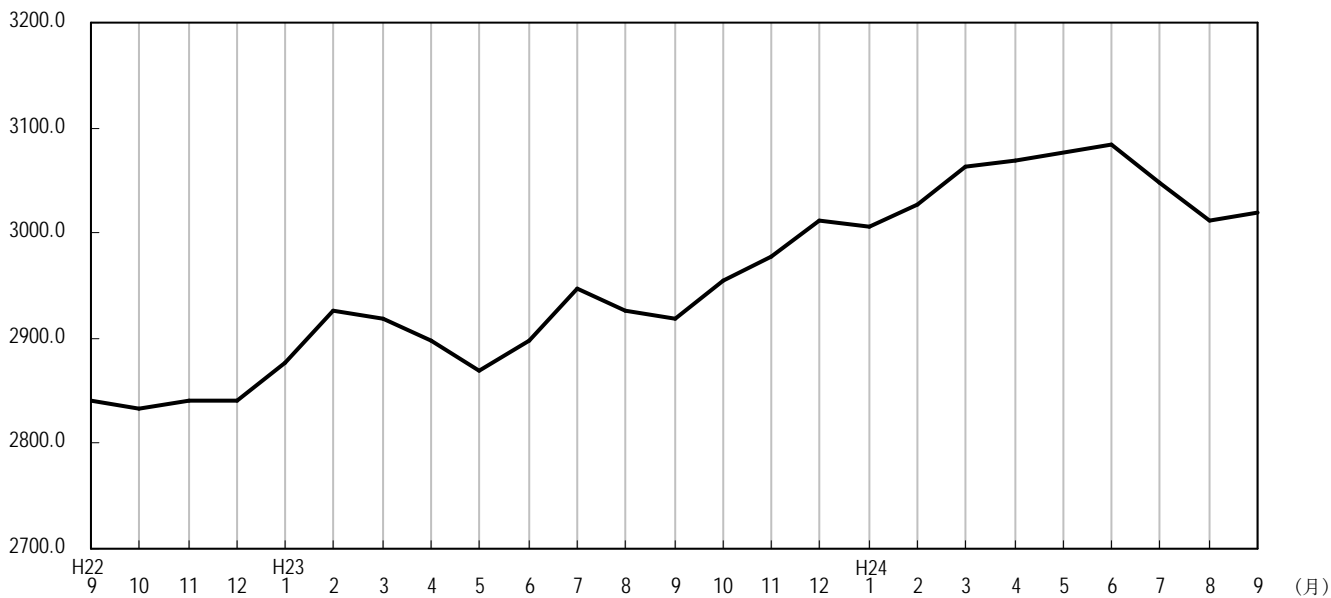
(単位 %)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2002	H14	8.3	16.7	16.7	16.7	33.3	50.0	58.3	33.3	41.7	41.7	83.3	66.7
2003	H15	66.7	16.7	33.3	50.0	66.7	91.7	41.7	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3
2004	H16	66.7	66.7	66.7	75.0	33.3	50.0	50.0	50.0	58.3	16.7	50.0	58.3
2005	H17	50.0	16.7	50.0	66.7	83.3	66.7	100.0	58.3	33.3	50.0	66.7	66.7
2006	H18	66.7	66.7	33.3	58.3	16.7	50.0	25.0	75.0	83.3	100.0	75.0	33.3
2007	H19	33.3	58.3	75.0	58.3	66.7	25.0	33.3	16.7	66.7	66.7	33.3	50.0
2008	H20	33.3	50.0	33.3	50.0	66.7	66.7	83.3	66.7	50.0	25.0	50.0	33.3
2009	H21	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3
2010	H22	83.3	58.3	75.0	16.7	0.0	33.3	66.7	83.3	25.0	50.0	50.0	33.3
2011	H23	33.3	33.3	16.7	66.7	83.3	83.3	50.0	33.3	100.0	41.7	33.3	0.0
2012	H24	33.3	50.0	66.7	41.7	25.0	50.0	16.7	16.7	30.0			

図表 4-1 累積指数グラフ・長期（先行・一致・遅行）



図表 4-2 累積指数グラフ・短期（一致）



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的にとらえることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

$$\text{累積DI} = \text{前月までの累積DI} + (\text{当月のDI} - 50)$$

(注2) グラフ中の網かけ部分は、景気後退期を示しています。

(注3) グラフを見やすくするため、先行指数は2500、一致指数は1000を加算しています。

(注4) グラフ中の山・谷は神奈川県のものです。

図表5 神奈川県景気基準日付

谷	山	谷	拡張期間	後退期間	全循環
	昭和55年 6月	昭和58年 2月		32か月	
昭和58年 2月	昭和60年 6月	昭和61年12月	28か月	18か月	46か月
昭和61年12月	平成 3年 3月	平成 6年 2月	51か月	35か月	86か月
平成 6年 2月	平成 9年 6月	平成11年 7月	40か月	25か月	65か月
平成11年 7月	平成12年12月	平成14年 2月	17か月	14か月	31か月
平成14年 2月	平成19年11月(暫定)	平成21年4月(暫定)	69か月	17か月	86か月

景気基準日付とは主要経済活動の中心的な転換点で、景気の転換点です。景気基準日付は景気循環の局面判断や各循環における経済活動の比較などに利用されます。
 景気が拡張から後退に転ずる転換点が景気の山で、景気が後退から拡張へ転ずる転換点が景気の谷です。

図表6 KDI（神奈川県景気動向指数）個別指標の概要

	指 標 名	季節調整法等	作 成 機 関	資 料 出 所
先行系	1 県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	X-12-ARIMAの中のX-11デフォルト	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県新規求人数(除く学卒)	X-12-ARIMA	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	3 県所定外労働時間指数(製造業)	X-12-ARIMA※1	県統計センター	毎月勤労統計地方調査月報
	4 県新設住宅着工床面積	X-12-ARIMA※1	国土交通省(建設統計室)	住宅着工統計
	5 県乗用車新車新規登録・届出台数(普通・小型・軽)	X-12-ARIMA※1	神奈川県自動車販売店協会(社)全国軽自動車協会連合会	新車登録台数速報 軽自動車新車販売速報
	6 県企業倒産件数(逆サイクル)	実数	㈱東京商工リサーチ	全国企業倒産状況
	7 日経商品指数(17種)・前年同月比	前年同月比	㈱日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系	1 県生産指数(製造工業)	X-12-ARIMA	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県大口電力使用量	X-12-ARIMA※1	東京電力(株)神奈川支店	作成機関資料
	3 首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)※2	X-12-ARIMA※1	首都高速道路(株)	作成機関資料
	4 県投資財出荷指数	X-12-ARIMA	県統計センター	工業生産指数月報
	5 県有効求人倍率(除く学卒)	X-12-ARIMA	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	6 県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	X-12-ARIMA※1	神奈川県労働局職業安定部	神奈川県労働市場月報
	7 横浜港等輸出入通関実績	X-12-ARIMA※1	横浜税関	横浜税関管内貿易速報
遅行系	1 県在庫指数(製造工業)	X-12-ARIMAの中のX-11デフォルト	県統計センター	工業生産指数月報
	2 県普通営業倉庫保管残高	X-12-ARIMA※1	神奈川県倉庫協会	作成機関資料
	3 県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	前年同月比	県統計センター	毎月勤労統計地方調査月報
	4 県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	X-12-ARIMA※1	県統計センター	消費者物価指数月報
	5 県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	前年同月比	日本銀行横浜支店	県内金融経済概況
	6 家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)	X-12-ARIMA※1	総務省統計局	家計調査報告(二人以上の世帯)

※1 神奈川県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

※2 平成24年1月から9月の「首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)」は、神奈川県が独自に全線の大型車の通行台数をもとに加工した値です。

図表7 個別指標の数値

(先行系列)

指標名 年月	県最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	県新規求人人数(除く学卒)	県所定外労働時間指数(製造業)	県新設住宅着工床面積	県乗用車新車新規登録・届出台数(普・小・軽)	県企業倒産件数(逆サイクル)	日経商品指数(17種)・前年同月比
	季節調整値 H17=100	季節調整値 人	季節調整値※1 H22=100	季節調整値※1 ㎡	季節調整値※1 台	件	%
H23. 9	101.0	25,736	100.9	490,029	17,817	52	100.9
10	99.9	25,964	94.7	410,074	19,276	64	100.2
11	96.6	25,295	92.7	628,703	19,518	60	96.6
12	96.7	25,100	96.0	455,184	20,202	55	90.9
H24. 1	84.9	25,758	93.4	410,750	21,514	44	91.7
2	92.2	25,465	94.6	507,864	21,264	49	90.7
3	91.7	28,105	93.7	404,153	23,070	68	90.2
4	86.8	28,348	97.6	404,330	22,291	56	87.6
5	71.3	26,621	99.1	496,969	24,367	72	86.4
6	96.2	28,268	96.4	436,589	22,554	54	86.1
7	98.4	28,607	90.2	552,343	24,006	56	85.0
8	84.4	28,905	87.0	424,550	18,700	58	89.9
9	92.6	27,255	84.3	465,639	17,345	59	99.3

(一致系列)

指標名 年月	県生産指数(製造工業)	県大口電力使用量	首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)※2	県投資財出荷指数	県有効求人倍率(除く学卒)	県雇用保険初回受給者数(逆サイクル)	横浜港等輸出入通関実績
	季節調整値 H17=100	季節調整値※1 MWH	季節調整値※1 台	季節調整値 H17=100	季節調整値 倍	季節調整値※1 人	季節調整値※1 百万円
H23. 9	75.5	1,217,997	33,758	79.5	0.49	8,165	1,246,274
10	78.7	1,224,974	34,574	89.2	0.50	8,088	1,264,625
11	76.6	1,230,738	34,624	89.8	0.51	8,070	1,244,628
12	77.9	1,251,492	34,743	89.6	0.51	7,895	1,233,010
H24. 1	72.4	1,264,288	33,646	83.2	0.52	7,268	1,230,702
2	83.8	1,249,757	32,544	97.3	0.52	8,124	1,282,773
3	79.7	1,254,727	32,047	94.4	0.53	7,799	1,370,027
4	80.6	1,250,035	33,158	99.8	0.56	7,648	1,298,877
5	78.4	1,225,728	33,827	100.7	0.57	7,384	1,261,772
6	79.8	1,196,377	32,536	98.7	0.58	7,875	1,158,298
7	73.3	1,212,145	33,013	90.0	0.60	7,751	1,139,922
8	72.1	1,205,209	31,943	83.7	0.61	7,902	1,136,846
9	66.8	1,209,577	35,012	78.1	0.59	8,156	1,214,188

(遅行系列)

指標名 年月	県在庫指数(製造工業)	県普通営業倉庫保管残高	県常用雇用指数(全産業)・前年同月比	県消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)	県内銀行貸出約定平均金利・前年同月比	家計消費支出(勤労者・関東大都市圏)
	季節調整値 H17=100	季節調整値※1 トン	%	季節調整値※1 H22=100	%	季節調整値※1 円
H23. 9	91.1	1,933,488	99.6	99.1	94.3	337,728
10	90.8	1,998,033	99.0	99.1	94.1	322,188
11	90.8	1,946,287	98.8	99.0	93.8	313,684
12	89.3	1,854,757	98.8	99.0	93.5	317,562
H24. 1	88.9	1,895,228	98.3	99.4	93.4	324,242
2	88.4	1,837,163	99.3	99.5	93.5	338,557
3	90.4	1,802,123	98.8	99.7	93.5	330,839
4	80.5	1,852,780	99.3	99.4	93.1	345,006
5	77.7	1,913,823	99.3	99.3	92.7	324,345
6	77.6	1,870,478	99.3	98.5	92.2	335,698
7	78.2	1,894,586	98.5	98.6	92.1	316,062
8	76.5	1,837,326	98.0	98.4	92.2	333,587
9	78.0	1,828,230	98.4	98.5		334,429

※1 神奈川県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

※2 平成24年1月から9月の「首都高速道路神奈川線通行台数(大型車)」は、神奈川県が独自に全線の大型車の通行台数をもとに加工した値です。

<参考> 神奈川C I

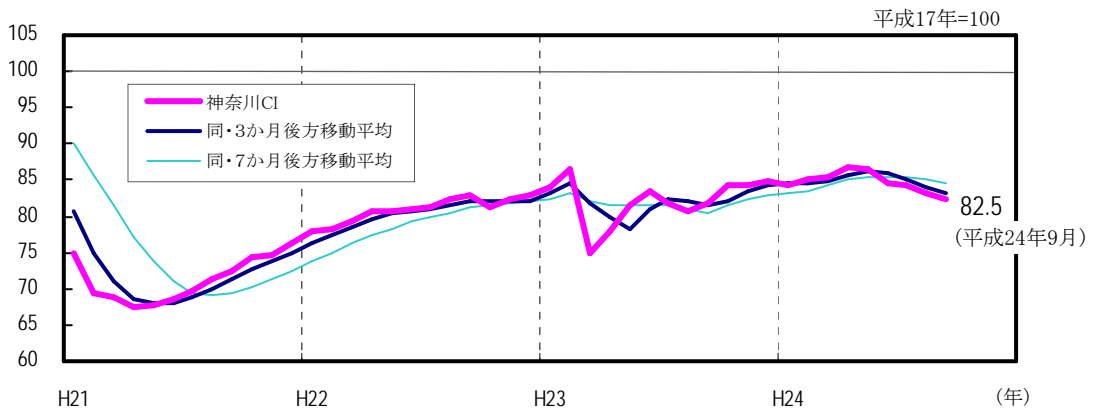
※神奈川CIの構成指標は、KDI一致系列と共通の指標としています。

1. 平成24年9月分神奈川C Iの概要

9月の神奈川C I（H17=100）は、82.5となり、前月と比較して0.6ポイント下降し、5か月連続の下降となった。3か月後方移動平均は0.67ポイント下降し、4か月連続の下降、7か月後方移動平均は0.36ポイント下降し、3か月連続の下降となった。

（神奈川C Iは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。C Iは不規則な動きも含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。）

2. 神奈川C Iの推移



3. 神奈川C I採用系列の寄与度

		平成24年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
神奈川C I	前月差(ポイント)	86.7	86.6	84.5	84.4	83.1	82.5
	寄与度	1.3	-0.1	-2.1	-0.1	-1.3	-0.6
1 県生産指数(製造工業)	前月比伸び率(%)	1.1	-2.7	1.8	-8.1	-1.6	-7.4
	寄与度	0.15	-0.36	0.18	-0.47	-0.20	-0.74
2 県大口電力使用量	前月比伸び率(%)	-0.4	-1.9	-2.4	1.3	-0.6	0.4
	寄与度	-0.07	-0.39	-0.48	0.27	-0.10	0.08
3 首都高速道路神奈川線 通行台数(大型車)	前月比伸び率(%)	3.5	2.0	-3.8	1.5	-3.2	9.6
	寄与度	0.56	0.33	-0.62	0.24	-0.51	0.51
4 県投資財出荷指数	前月比伸び率(%)	5.7	0.9	-2.0	-8.8	-7.0	-6.7
	寄与度	0.43	0.07	-0.17	-0.66	-0.58	-0.55
5 県有効求人倍率(除学卒)	前月差	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	-0.02
	寄与度	0.74	0.34	0.34	0.52	0.32	-0.26
6 県雇用保険初回受給者数 (逆サイクル)	前月比伸び率(%)	-1.9	-3.5	6.6	-1.6	1.9	3.2
	寄与度	0.10	0.21	-0.42	0.08	-0.14	-0.21
7 横浜港等輸出入通関実績	前月比伸び率(%)	-5.2	-2.9	-8.2	-1.6	-0.3	6.8
	寄与度	-0.56	-0.31	-0.90	-0.17	-0.03	0.54
3か月後方移動平均	前月差(ポイント)	85.7	86.2	85.9	85.2	84.0	83.3
	寄与度	0.80	0.53	-0.30	-0.76	-1.17	-0.67
7か月後方移動平均	前月差(ポイント)	85.0	85.3	85.3	85.3	85.1	84.7
	寄与度	0.72	0.34	0.04	-0.07	-0.17	-0.36

注：神奈川C Iの前月からの変化（前月差）が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

4. 神奈川C I時系列表

平成17年=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	74.8	69.3	68.8	67.5	67.8	68.6	69.7	71.3	72.5	74.3	74.6	76.2
2010	H22	77.9	78.2	79.4	80.8	80.7	81.0	81.3	82.3	83.0	81.2	82.3	82.9
2011	H23	84.0	86.6	75.0	77.9	81.5	83.5	81.9	80.6	81.7	84.2	84.2	84.9
2012	H24	84.3	85.0	85.4	86.7	86.6	84.5	84.4	83.1	82.5			

利用の手引き

○ 景気動向指数（D I）の概要

D I（ディフュージョン インデックス）には先行、一致、遅行の3本の指数があります。先行指数は景気の先行きを示し、一致指数は景気にはほぼ一致して動いて現状を示し、遅行指数は景気に遅れて動きを示します。一般的に先行指数は、一致指数に数か月程度先行することから「景気の動きを予知」し、遅行指数は一致指数に半年から一年遅れることから「景気の転換点や局面の確認」に利用することができます。

○ 景気動向指数（D I）の作成方法

D Iは、①景気と対応性のある経済統計データを選定し、②的確に季節変動を除去した上で、③3か月前の値と比べることにより作成します。

・D Iの計算

各個別指標の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0（もちあい）をつけます。（景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。）

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用指標数に占める拡張指標数（+の数）の割合（%）を求めます。

$$D I = \text{拡張指標数} / \text{採用指標数} \times 100 (\%)$$

（0（もちあい）は0.5としてカウントします。）

・季節調整

統計調査等によって集計された値には、毎年繰り返される規則的な増減（季節変動）が含まれることが多く、景気変動を把握するため、公表される統計の値から季節変動を除去することを季節調整といい、その方法として、米センサス局法X-12-ARIMAや前年同月比を用いています。

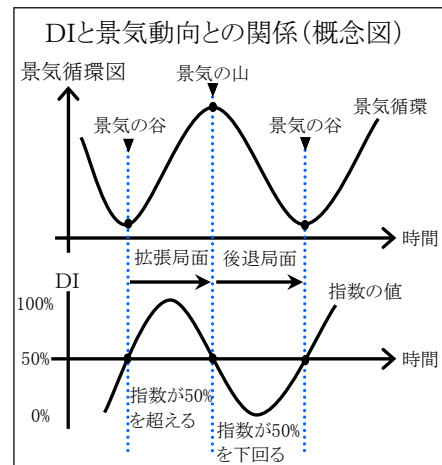
○ 指数の見方

・景気の局面

D Iでは景気の二局面「拡張」「後退」をみることができます。一般的に一致指数が3か月連続で50%超であれば「拡張」、逆に3か月連続で50%を下回れば「後退」と考えられます。実際には個別指標の不規則な変動が合成されて大きなぶれが生じることもあります。

・景気の山・谷

景気の山は、一致指数で50%超が続く時期（拡張局面）から、50%未満が続く時期への転換点、50%超から50%未満へ向かう時期の近辺にあり、景気の谷は逆に50%未満から50%超へと向かう時期の近辺にあるものと一般的には考えられます。



○ 参考指標「神奈川C I」について

神奈川C I（コンポジット インデックス）は、構成指標の動き（変化量）を合成した指数で、過去と比較した相対的な景気変動の大きさを示します。景気の方角感を示すK D Iと併せて利用することにより、神奈川県内の景気の現状把握に資することを目的とし、K D Iを補完する参考指標として、平成23年1月より公表を開始しました。

・神奈川C Iの作成方法

神奈川C Iの作成方法は、内閣府のC I作成方法に準じています。また、構成指標はK D I一致指数と共通の指標としています。神奈川C Iの作成方法を簡潔に述べると、K D I一致指数の個別指標における前月比変化率を、過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。

・神奈川C Iの見方

神奈川C Iの変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。C Iには不規則な動きも含まれていることから、ある程度の期間の月々の動きをならして試みるのが望ましく、統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

・D Iとの違い

D Iが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればC Iも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばC Iも小幅に上昇するため、C IはD Iでは計測できない景気変動の大きさを計測することができます。

次回の公表：K D I 平成24年10月分の公表は平成24年12月27日（木）14時の予定です。